



伏山代集 追薦集

曾外撰

中村俊定文庫
文庫 18
766



武黛菴

追薦集

曾外著

院を以て授け奉。湯にて
流す所を以て授け奉。おまけ
の。おまけにて授け奉。おまけ
係を以て授け奉。入つて人
の生を以て授け奉。おまけ
伊。おまけ。おまけ。おまけ
おまけ。おまけ。おまけ。おまけ
おまけ。おまけ。おまけ。おまけ

いさかき
いさかき
いさかき



文化十申冬、霜月四日

北風居士七回忌追善、俳諧於北山寛國寺

歌仙真行

一夜のお波みまぐ聲ももえく
北子風北部の畑と云る

晴あけむ語くもかきみちのちね

木の葉代乾く鶺鴒の草

一提の鳥志つらあまをさる

かちしちるせ波きりの家



善白塔
即央

曾外

堆洞

三醒

三

山もやまの風もあつたがまのり
 かつきののせうのふる 四 駕
 田原の拍子ぬけの松の風
 泣かしたるよの卯のむらさき
 まつより 園庭のうきかちの
 拍子桶形の窓を切く
 ちの老の膝の拍子つて
 舟のちのちのちのちのち

且く
 故実
 斜江
 梨溪
 在鴨
 之曲
 雪香
 宗郎

舟のちのちのちのちのち
 鼻のちのちのちのちのち
 倉のちのちのちのちのち
 菓のちのちのちのちのち
 ひのちのちのちのちのち
 風のちのちのちのちのち

睦良
 鴉房
 外
 淵
 廿七
 富山

右一折下畧

七年のらむのちと母のきり

雪香

あゝの栞佛もますこつうか

睦朶

河豚登一甚一とあしと佛一

三醒

あゝのよぶとて佛のしりらぬのち

鴉房

あゝのよぶとて佛のしりらぬのち

富山

茶のたまふ摺こちとてあゝのち

宗郎

あゝのよぶとて佛のしりらぬのち

綱吉

あゝのよぶとて佛のしりらぬのち

夏川

あゝのよぶとて佛のしりらぬのち

文彦

あゝのよぶとて佛のしりらぬのち

松子

あゝのよぶとて佛のしりらぬのち

斜江

此の巻茶のしりらぬのちの流風をいふやうに
遊雅を言はれし

あゝのよぶとて佛のしりらぬのち

花六

此の田舎の北風を言はれしは海邊に居るものなり
あゝのよぶとて佛のしりらぬのちの流風をいふやうに
遊雅を言はれし

あゝのよぶとて佛のしりらぬのち

菓吉

志らぬしつゝもゆるし舟のね
 風き集ふ雲ささく心なむら眼
 草のしゆもささく心なむら眼
 志らぬしつゝもゆるし舟のね
 花の香も影の長さをわすれ
 はらぬるきくさくさくさくさ
 みつきもす月も津の影はさ

富山
 且く
 故更
 雀鴨
 斜江
 梨溪
 洞丸
 晴泉

あつたの風ささく心なむら眼
 世のささく心なむら眼
 松木もささく心なむら眼
 月もささく心なむら眼

雪音
 曾外
 宗郎
 雪丸
 之曲

五十七句鳥時
 蝦蟇仙人画

六条のち教出からうらわむ

細月

しむかへんむらさきもむらさきも

故交

可いむらさきもむらさきも

廻く

二葉のむらさきもむらさきも

之醒

よきむらさきもむらさきも

洞

ちむらさきもむらさきも

外

張る火よおちのむらさきも

洞

あゝむらさきもむらさきも

年

燈をみる斗かきむらさきも

右

波をみる斗かきむらさきも

月

廿一木樵一戸^リ末のむらさきも

醒

ハ十二木樵一戸^リ末のむらさきも

旦

接をみる斗かきむらさきも

洞

河豚のむらさきもむらさきも

年

楊枝をみる斗かきむらさきも

右

